
異世界勇者様の戯言

聖夜のテロリスト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界勇者様の戯言

【Nコード】

N0832Q

【作者名】

聖夜のテロリスト

【あらすじ】

人生とは、理不尽の連続である。

俺は、目の前に広がる光景をただ呆然と見つめ続ける。

そこは、全く見覚えの無い森の中……

映画のワンシーンにでも入り込んだのかと俺は、周囲を見渡してみた。

すると、足元に一枚の紙切れが置いてあるのに気付いた。

俺は、無言でその紙切れを拾い上げるとそこに書かれていた言葉を

読み上げる。

その紙切れには、たった一言……こう書かれていた。

『ごめん、召喚しちゃった。』

そうか……俺は、どうやら召喚されちゃった様だ。

そんなこんなで、俺の異世界召喚ライフが始ったのである。

01. ある日、森の中

「……おかしい」

俺は、思わずそんな言葉を呟いた。

いや、おかしいと言えばここまでの経緯、その全てがおかしい訳だが……

それを言い出すときりがないので考えない事にする。

そして、俺が今おかしいと感じている事について頭の中で考えてみる事にした。

俺がおかしいと口にしたのは、未だに抜け出せない森の構造についてだ。

何故なら、普通この展開だと我武者羅に歩いていれば何処かしらの村や町に辿り着くはずなのだ。

そして、そこで暮らしている武器屋で店番をしている一人娘や町を守る為に日夜戦っている自警団の女騎士さんとかとラブロマンスが発生するのである。

……少なくとも俺が読んだ小説などでは、そういう展開があったのだ。

……なのに、なのにである。

俺は、未だに森の中から抜け出す事が出来ず、ただ森を歩くだけという面白みの皆無な展開をだらだらと続けさせられているのだ。

一体、これはどういう状況なんだ？ ラブロマンスな展開を文章にするのが面倒なんだろうか？

などとメタな発言を誰かさんに呟いてしまいそうな程に、酷い展開なのである。

『人間というのは、“孤独”に耐えられない生き物だ』

そんな事を友人が話していた事を思い出す、あの時の俺は何を大袈裟なと思っていたのだが……

実際、こういう状況に陥ると彼の言葉に納得してしまう自分がいた。ぶっちゃけ、今現在”孤独”が辛いのである。誰かに構ってほしいのである。

誰かと言ってもここには、誰もいないんだけどねっ！ H A H A H A！

……………。

そろそろ精神的に限界がきてるんだなと今の自分の心の呟きで気付かされた……末期である。

そういえば、さっきから森の木々や茂みに話しかけて素敵な時間を過している気がする。

……ああ、こうやって人は駄目になっていくのか、と妙な悟りを開きながら俺は歩くスピードを上げた。

暫く、そんなつまらない展開が続くので森の話はここで割愛させて頂こう。

……俺は、死ぬ思いして歩いたんだけどなあ？ ……クソがつ！

01. ある日、森の中（後書き）

初めまして、聖夜のテロリストと申します。

謎の衝動に駆られ、勢いで作ってしまった本作ですが読んで頂けると嬉しいです。

では、今後ともよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0832q/>

異世界勇者様の戯言

2011年1月16日01時20分発行